

### Ⅲ 調査の結果

#### 問Ⅰ 男女共同参画に関する認知度

あなたは、これらの言葉を御存知ですか。アからコのそれぞれの言葉について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

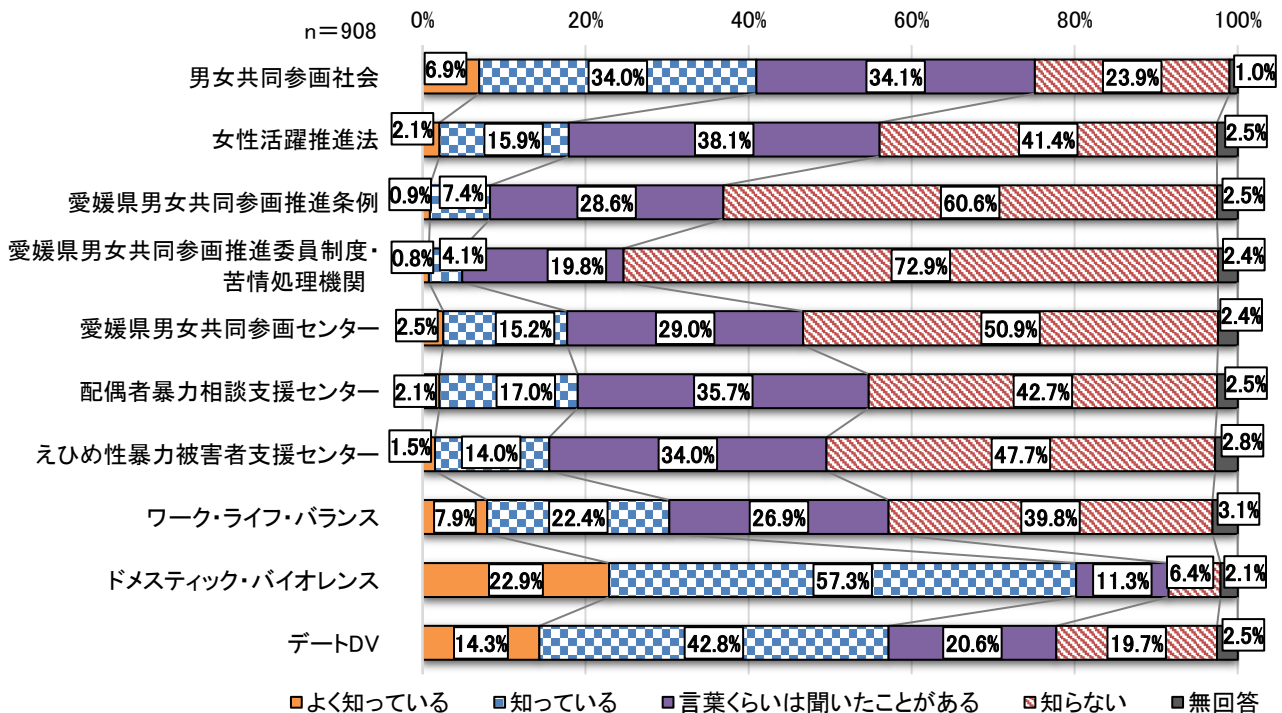
言葉	よく知っている	知っている	言葉くらいは聞いたことがある	知らない	無回答
ア 男女共同参画社会	6.9%	34.0%	34.1%	23.9%	1.0%
イ 女性活躍推進法	2.1%	15.9%	38.1%	41.4%	2.5%
ウ 愛媛県男女共同参画推進条例	0.9%	7.4%	28.6%	60.6%	2.5%
エ 愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関	0.8%	4.1%	19.8%	72.9%	2.4%
オ 愛媛県男女共同参画センター	2.5%	15.2%	29.0%	50.9%	2.4%
カ 配偶者暴力相談支援センター	2.1%	17.0%	35.7%	42.7%	2.5%
キ えひめ性暴力被害者支援センター	1.5%	14.0%	34.0%	47.7%	2.8%
ク ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	7.9%	22.4%	26.9%	39.8%	3.1%
ケ ドメスティック・バイオレンス(DV)	22.9%	57.3%	11.3%	6.4%	2.1%
コ デートDV(交際相手からのDV)	14.3%	42.8%	20.6%	19.7%	2.5%

#### 【全体】問Ⅰ 男女共同参画に関する認知度

男女共同参画に関する用語のうち、「男女共同参画社会」を「知っている」と回答した者（「よく知っている」（6.9%）と「知っている」（34.0%）、「言葉くらいは聞いたことがある」（34.1%）の合計（以下同じ）の割合は75.0%、「女性活躍推進法」を「知っている」と回答した者の割合は56.1%、「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている」と回答した者の割合は57.2%となっている。

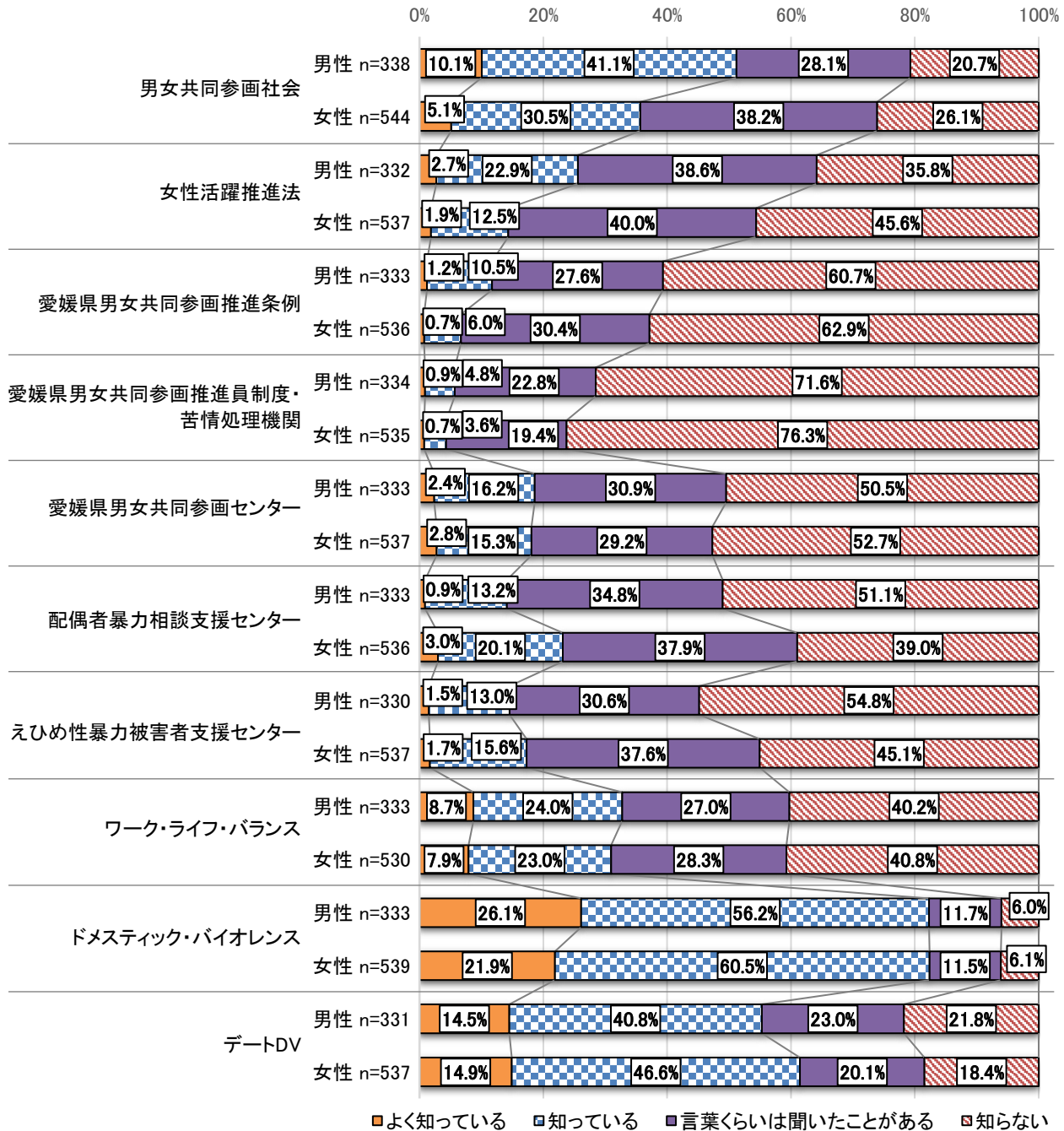
本県施策関連の用語では、「愛媛県男女共同参画推進条例」を「知っている」と回答した者の割合は36.9%、「愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関」を「知っている」と回答した者の割合は24.7%、「愛媛県男女共同参画センター」を「知っている」と回答した者の割合は46.7%となっている。

その他の用語では、「配偶者暴力相談支援センター」を「知っている」と回答した者の割合は54.8%、「えひめ性暴力被害者支援センター」を「知っている」と回答した者の割合は49.5%、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」を「知っている」と回答した者の割合は91.5%、「デートDV(交際相手からのDV)」を「知っている」と回答した者の割合は77.7%となっている。



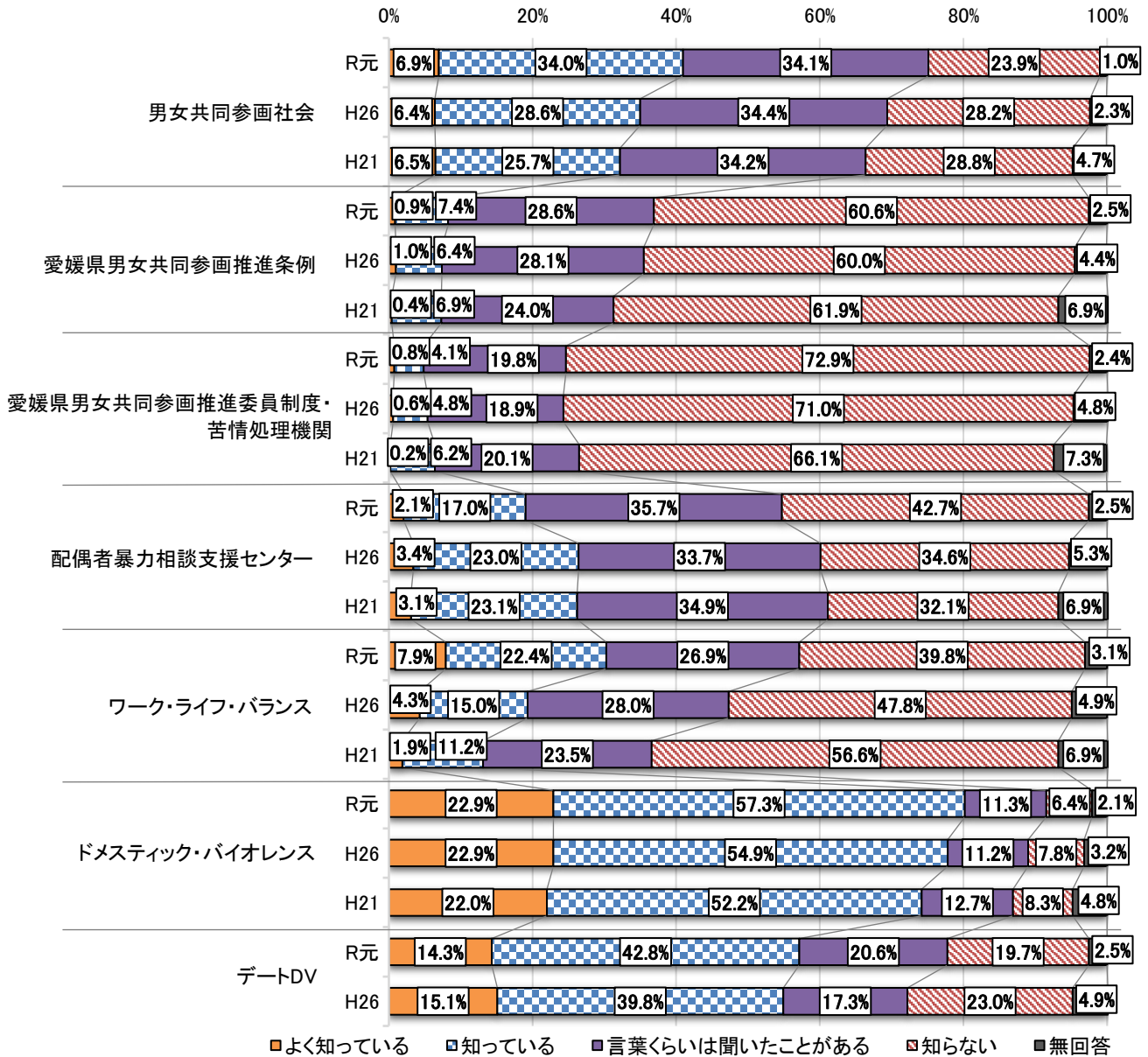
## 【性別】問1 男女共同参画に関する認知度

性別にみると、「知っている」と回答した者の割合は「女性活躍推進法」9.8ポイント（男性64.2%、女性54.4%）、「男女共同参画社会」5.0ポイント（男性79.3%、女性73.8%）、男性の方が女性より高くなっている。「配偶者暴力相談支援センター」12.1ポイント（女性61.0%、男性48.9%）、「えひめ性暴力被害者支援センター」9.8ポイント（女性54.9%、男性45.1%）、女性の方が男性より高くなっている。



### 【過去との比較】問1 男女共同参画に関する認知度

過去の調査と比較すると、「男女共同参画社会」、「愛媛県男女共同参画推進条例」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ドメスティック・バイオレンス (DV)」、「デートDV (交際相手からのDV)」は、「知っている」と回答した者の割合が増えている。「配偶者暴力相談支援センター」は、「知っている」と回答した者の割合が減っている。



(注) R元年度から、「愛媛県男女共同参画計画」「ポジティブ・アクション (積極的改善措置)」を削除し、「女性活躍推進法」「愛媛県男女共同参画センター」「えひめ性暴力被害者支援センター」を追加。

## 問2 男女の地位の平等感

あなたは、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。アからキのそれぞれの分野について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

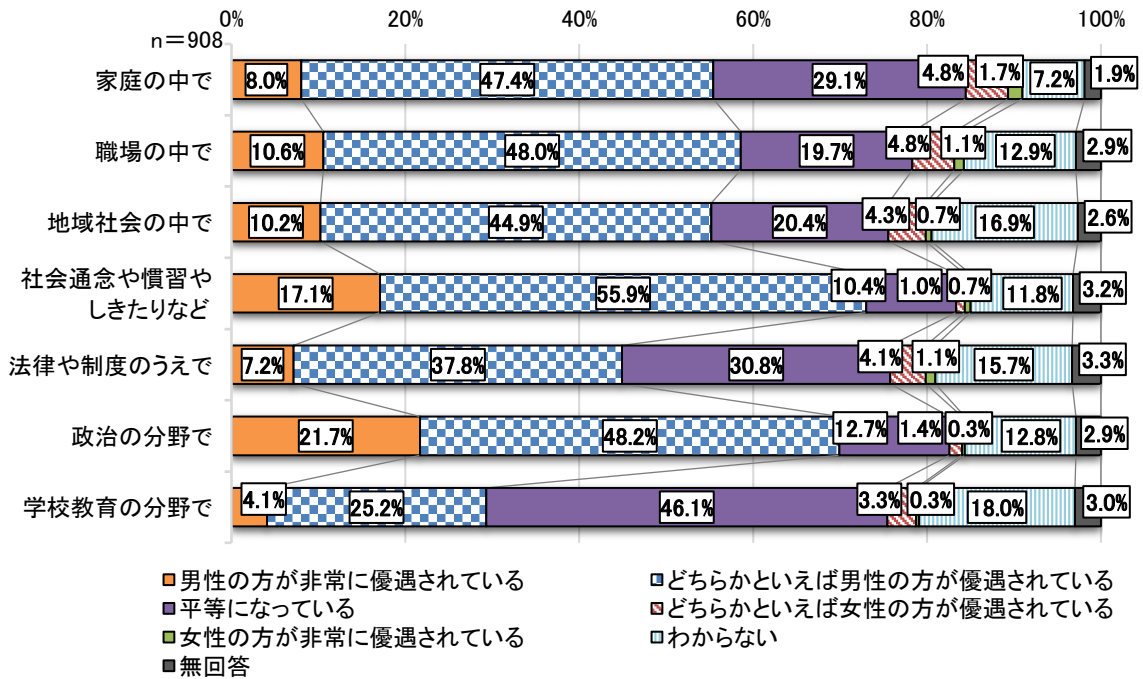
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
ア 家庭の中で	8.0%	47.4%	29.1%	4.8%	1.7%	7.2%	1.9%
イ 職場の中で	10.6%	48.0%	19.7%	4.8%	1.1%	12.9%	2.9%
ウ 地域社会の中で(町内会、自治会など)	10.2%	44.9%	20.4%	4.3%	0.7%	16.9%	2.6%
エ 社会通念や慣習やしきたりなど	17.1%	55.9%	10.4%	1.0%	0.7%	11.8%	3.2%
オ 法律や制度のうえで	7.2%	37.8%	30.8%	4.1%	1.1%	15.7%	3.3%
カ 政治の分野で	21.7%	48.2%	12.7%	1.4%	0.3%	12.8%	2.9%
キ 学校教育の分野で	4.1%	25.2%	46.1%	3.3%	0.3%	18.0%	3.0%

### 【全体】問2 男女の地位の平等感

社会の各分野における男女の地位の平等感については、「平等」と回答した者の割合は、高い順に「学校教育」46.1%、「法律や制度」30.8%、「家庭」29.1%、「地域社会」20.4%、「職場」19.7%、「政治」12.7%、「社会通念や慣習やしきたりなど」10.4%となっている。

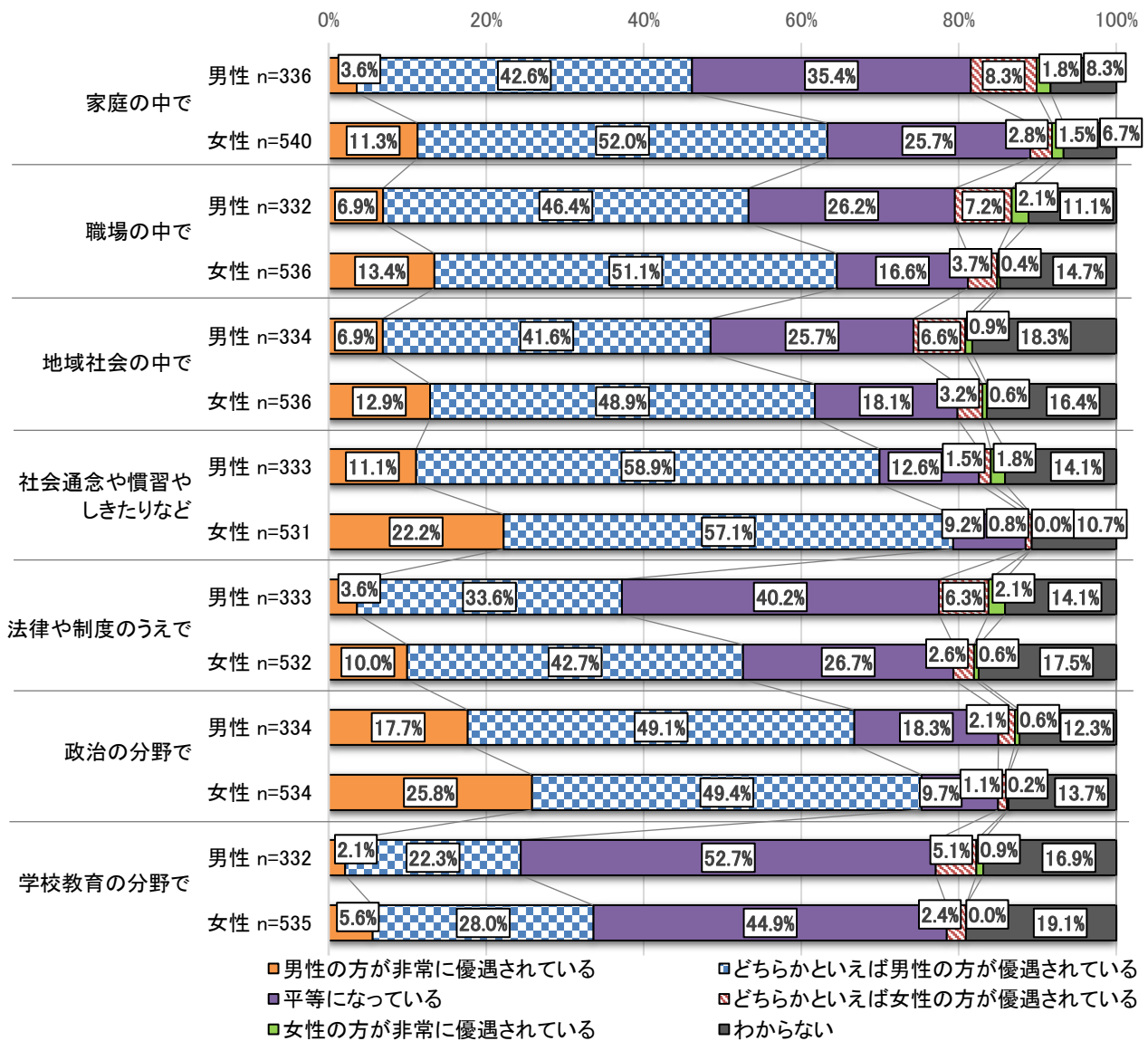
また、「男性の方が優遇されている」と回答した者（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計（以下同じ））の割合は、「家庭」55.4%、「職場」58.6%、「地域社会」55.1%、「社会通念や慣習やしきたりなど」73.0%、「政治」69.9%となっており、「法律や制度」45.0%、「学校教育」の29.3%を除き、いずれも半数以上の割合となっている。

分野別にみると、「社会通念や慣習やしきたりなど」「政治」の分野では、「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合が7割程度となっており、他の分野と比較して高くなっている。「女性の方が優遇されている」と回答した者の割合は、全て1割以下の割合となっている。



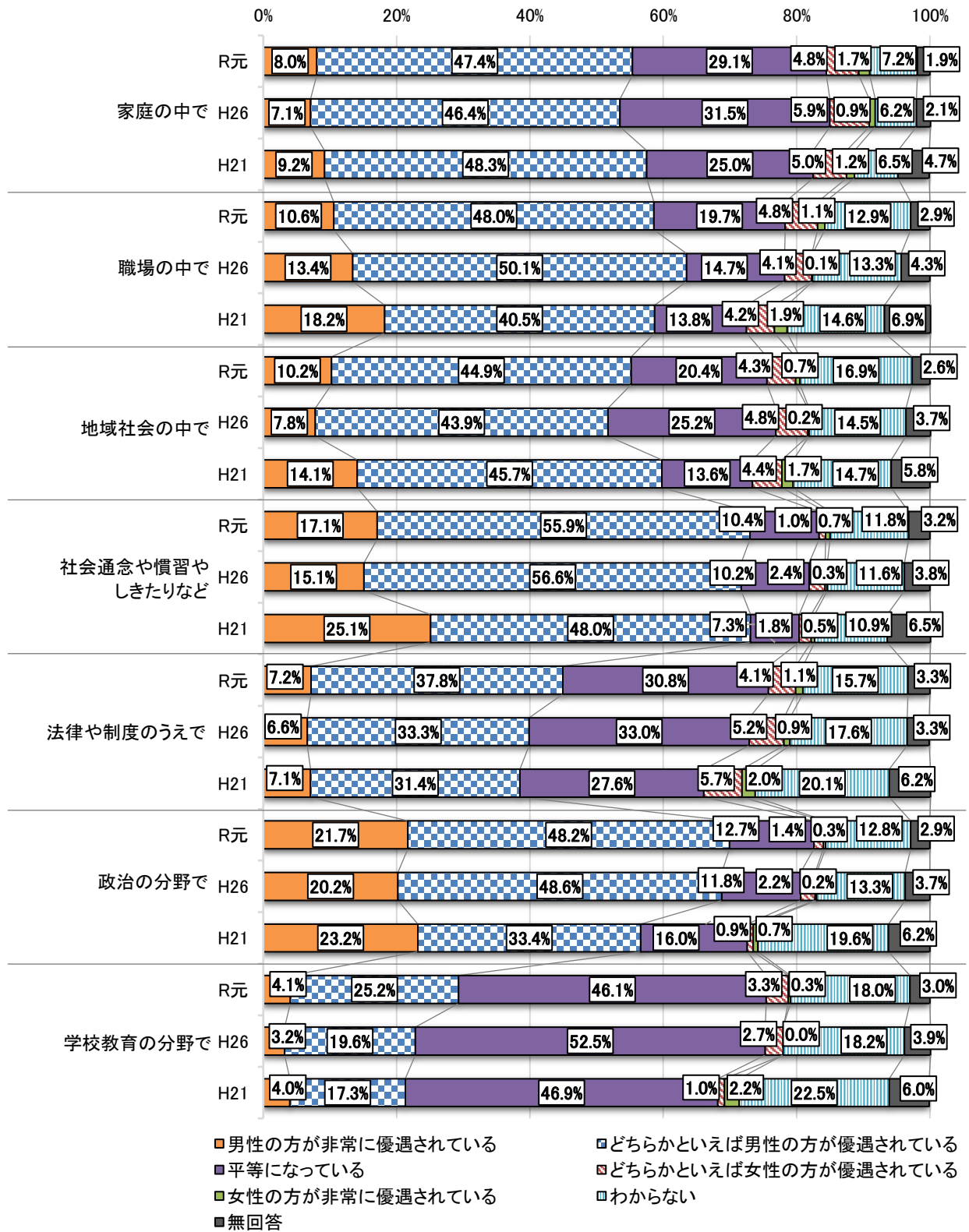
## 【性別】問2 男女の地位の平等感

性別にみると、全ての分野で「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合は、女性の方が男性より高くなっている。全ての分野で「平等」と回答した者の割合は、男性の方が女性より高くなっている。



## 【過去との比較】問2 男女の地位の平等感

過去の調査と比較すると、「平等」と回答した者の割合が増加傾向を示している分野は、「職場」のみとなっている。「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合が増加傾向を示している分野は、「法律や制度」、「政治」、「学校教育」となっている。



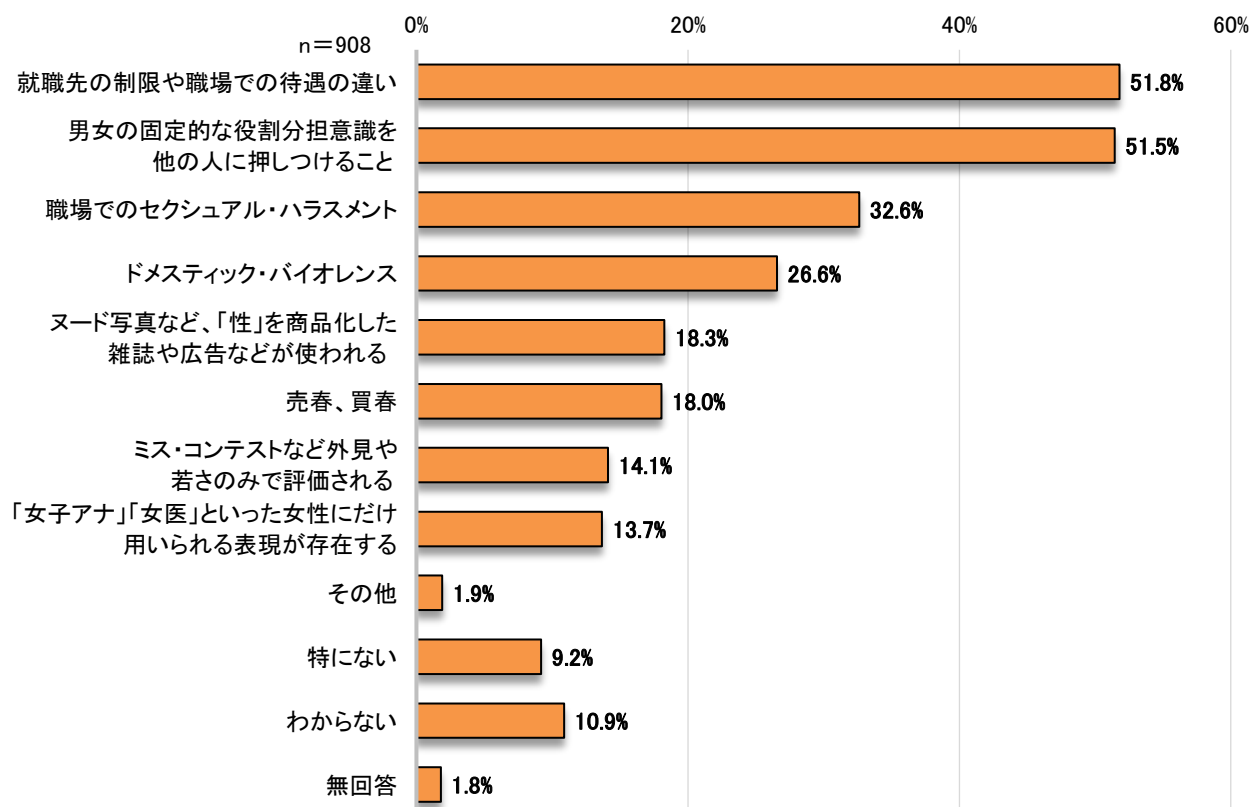
### 問3 性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別を理由に人権が守られていないと思うのは、どのような場合だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から、三つまで選んで番号を○で囲んでください。(複数回答)

1	就職先の制限や職場での待遇の違い(賃金などの労働条件で男女格差がある等)	51.8%
2	職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	32.6%
3	ドメスティック・バイオレンス(配偶者間、共同生活中的の交際相手からの暴力など)	26.6%
4	男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」など)を他の人に押しつけること	51.5%
5	ヌード写真など、「性」を商品化した雑誌や広告などが使われる	18.3%
6	売春、買春	18.0%
7	「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する	13.7%
8	ミス・コンテストなど外見や若さのみで評価される	14.1%
9	その他	1.9%
10	特にない	9.2%
11	わからない	10.9%
	無回答	1.8%

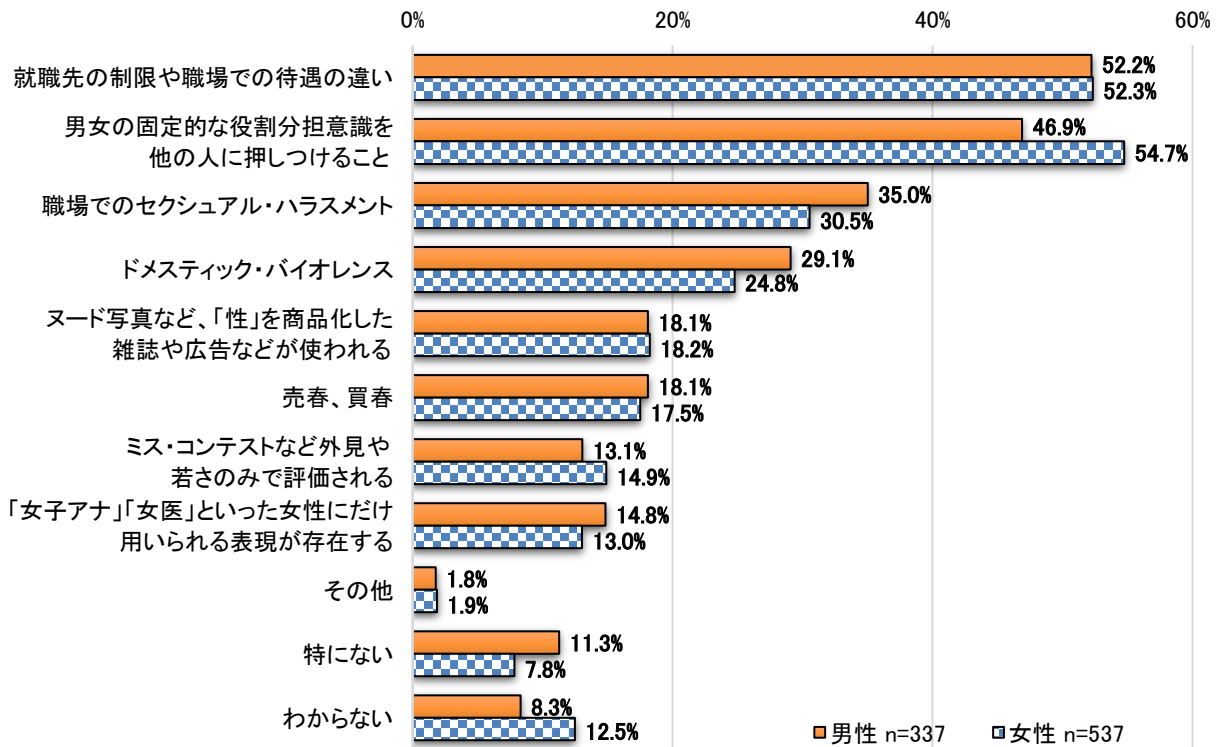
#### 【全体】問3 性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別を理由に人権が守られていないと思うことについて複数回答により聞いたところ、「就職先の制限や職場での待遇の違い」(51.8%)と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押しつけること」(51.5%)、「職場でのセクシュアル・ハラスメント」(32.6%)、「ドメスティック・バイオレンス」(26.6%)、「ヌード写真など、「性」を商品化した雑誌や広告などが使われる」(18.3%)、「売春、買春」(18.0%)、「ミス・コンテストなど外見や若さのみで評価される」(14.1%)、「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する」(13.7%)の順になっている。



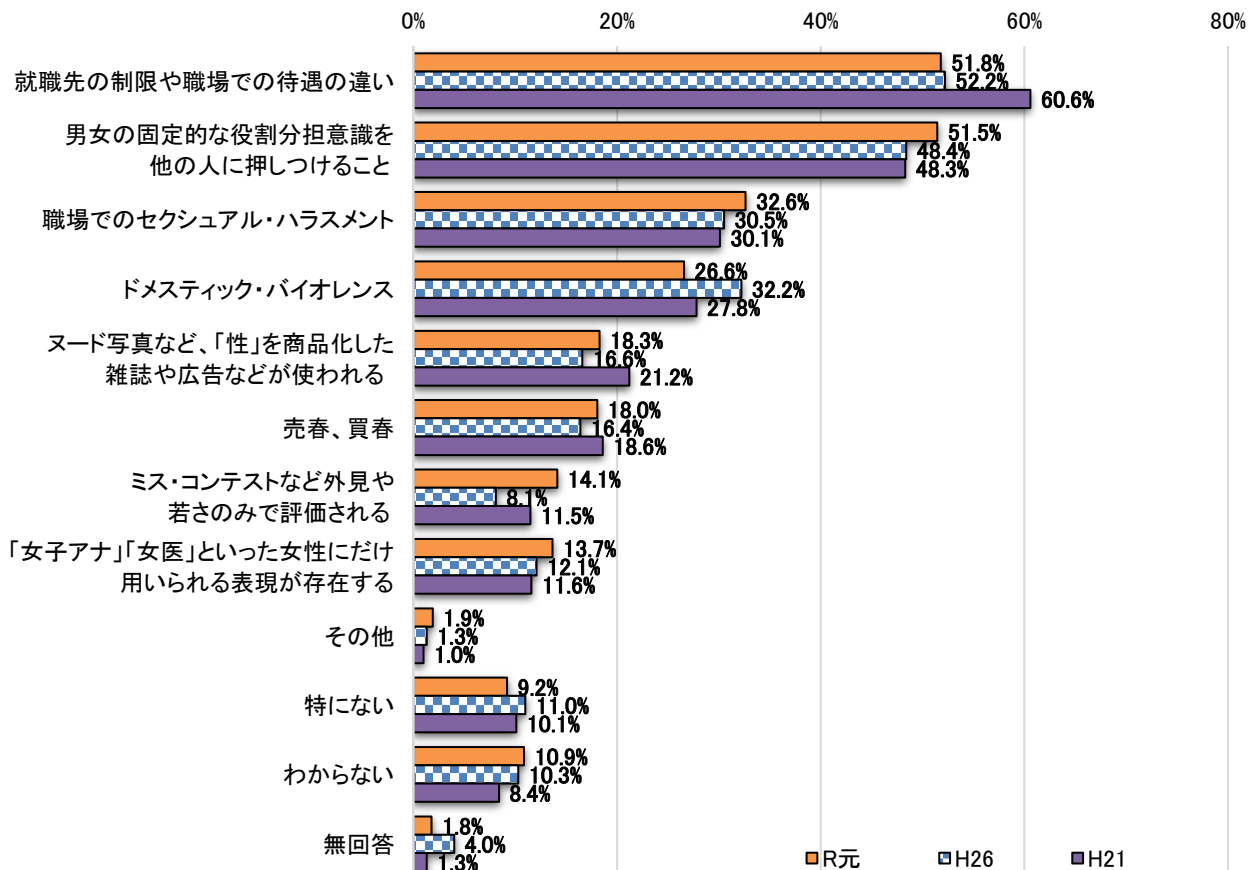
### 【性別】問3 性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別にみると、「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押しつけること」は7.8ポイント(女性54.7%、男性46.9%)、女性の方が男性より高くなっている。それ以外では、あまり変化は見られない。



### 【過去との比較】問3 性別を理由に人権が守られていないと思う事項

過去の調査と比較すると、「就職先の制限や職場での待遇の違い」は、回答した者の割合が減少傾向にある。



(注) R元年度から、「婦人」「未亡人」といった女性にだけ用いられる言葉が存在するを「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する」に変えている。



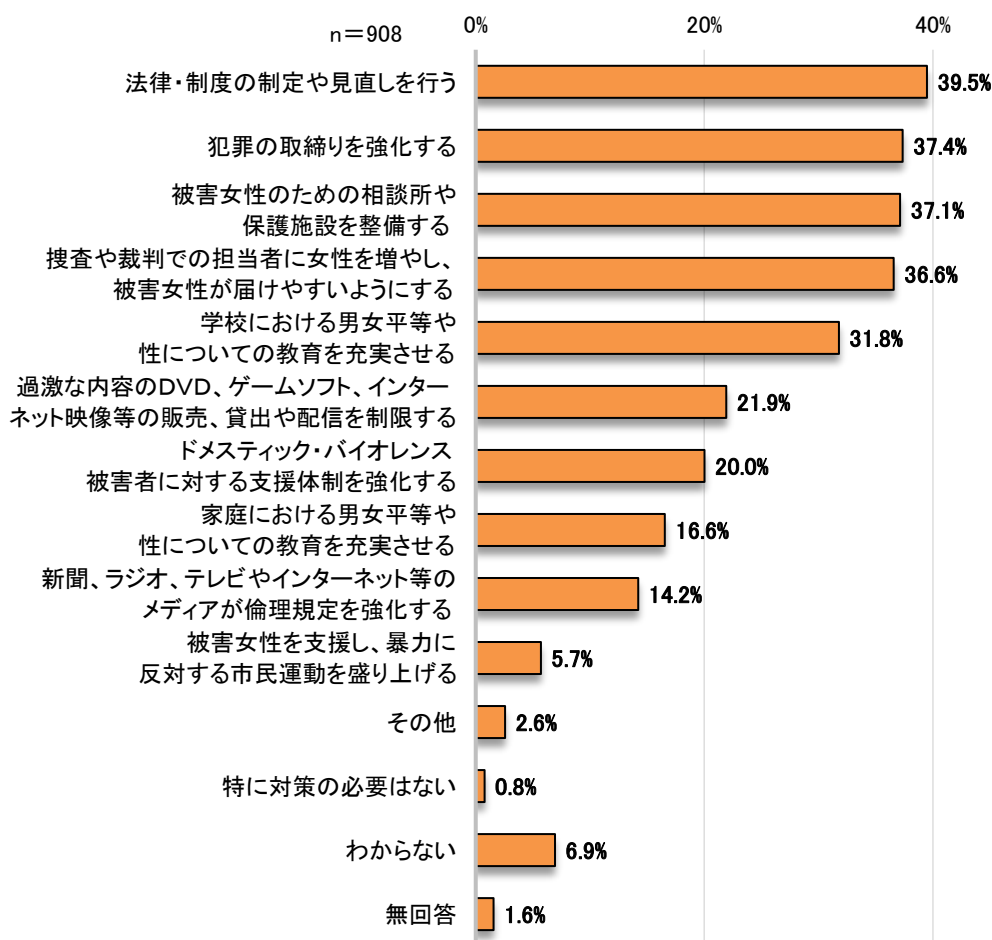
## 問4 女性に対する暴力をなくすための方策

女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を○で囲んでください。(複数回答)

1	法律・制度の制定や見直しを行う	39.5%
2	犯罪の取締りを強化する	37.4%
3	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする	36.6%
4	被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	5.7%
5	被害女性のための相談所や保護施設を整備する	37.1%
6	家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	16.6%
7	学校における男女平等や性についての教育を充実させる	31.8%
8	新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアが倫理規定を強化する	14.2%
9	過激な内容のDVD、ゲームソフト、インターネット映像等の販売、貸出や配信を制限する	21.9%
10	ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者に対する支援体制を強化する	20.0%
11	その他	2.6%
12	特に対策の必要はない	0.8%
13	わからない	6.9%
	無回答	1.6%

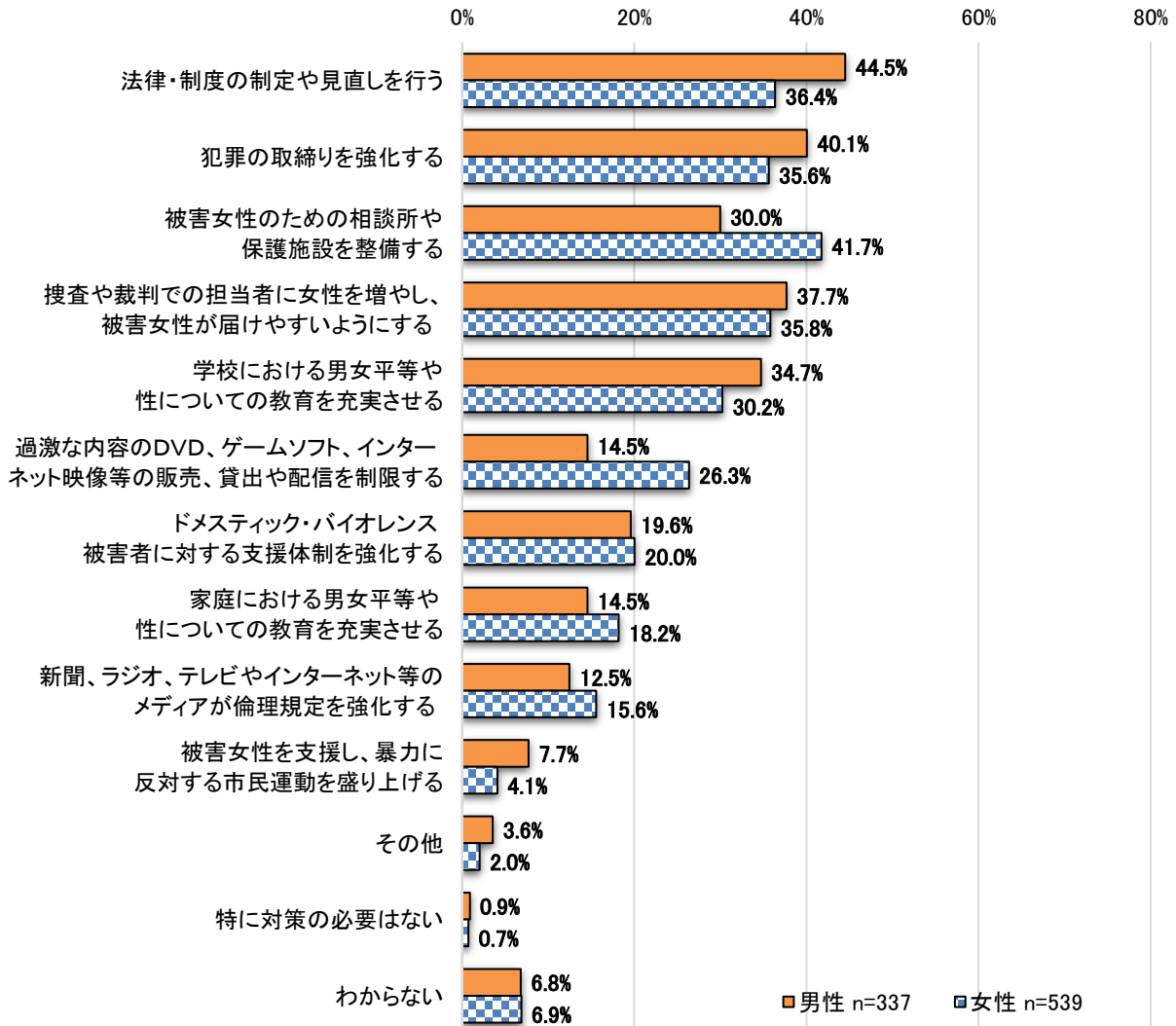
### 【全体】問4 女性に対する暴力をなくすための方策

女性に対する暴力をなくすための方策について複数回答により聞いたところ、「法律・制度の制定や見直しを行う」(39.5%)と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「犯罪の取締りを強化する」(37.4%)、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」(37.1%)、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」(36.6%)、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」(31.8%)の順になっている。



### 【性別】問4 女性に対する暴力をなくすための方策

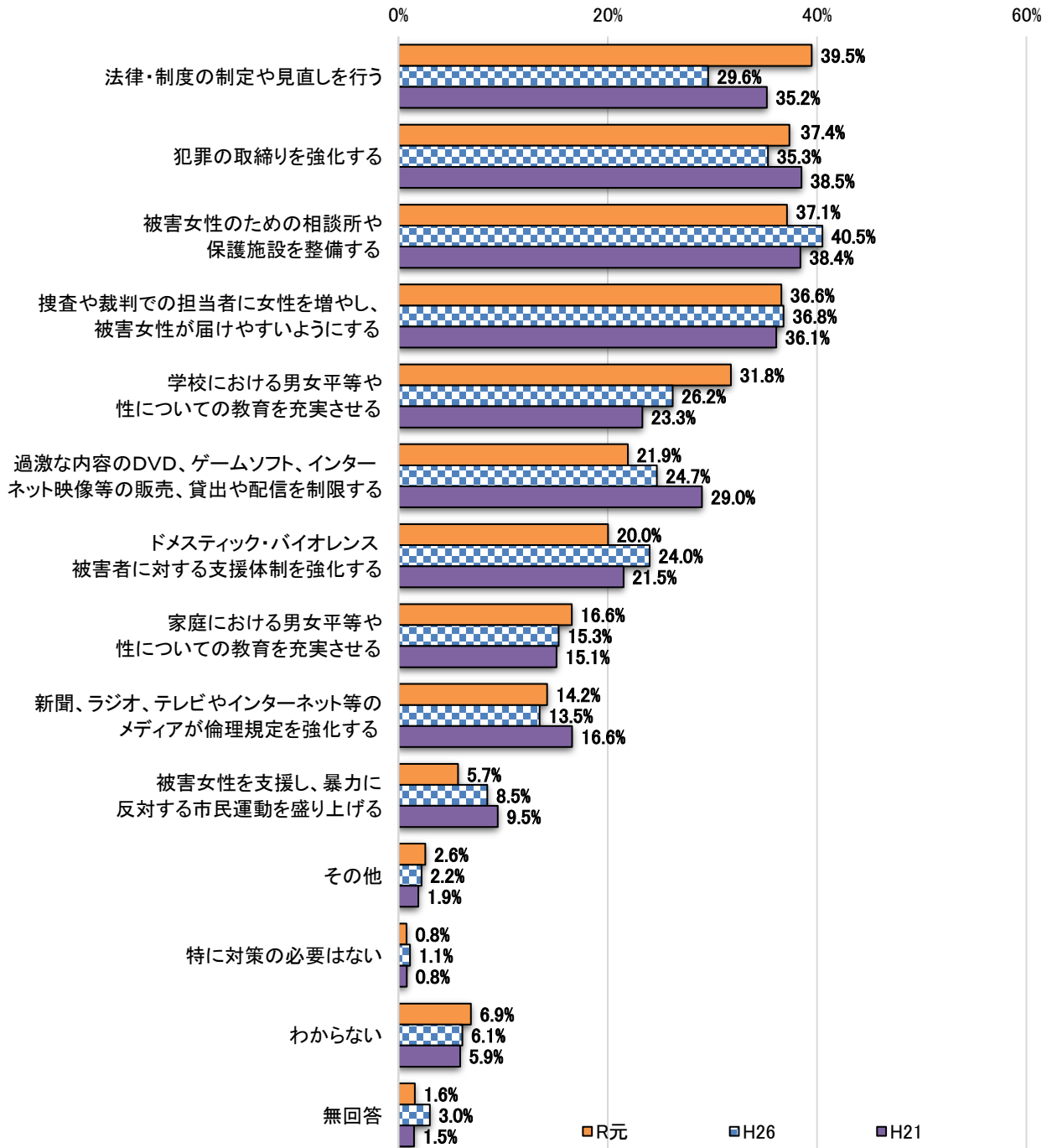
性別にみると、男性で最も回答した者の割合が高かった方策は、「法律・制度の制定や見直しを行う」であり、女性では「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」となっている。次いで、男性は「犯罪の取締りを強化する」、女性は「法律・制度の制定や見直しを行う」となっている。



### 【過去との比較】問4 女性に対する暴力をなくすための方策

過去の調査と比較すると、「法律・制度の制定や見直しを行う」は、前年度から9.9ポイント増加している。

また、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」と「家庭における男女平等や性についての教育を充実させる」の教育の充実に関することは割合が増加傾向にある。



## 問5 夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

(現在、夫や妻(事実婚や単身赴任など別居中を含む)、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方へ)

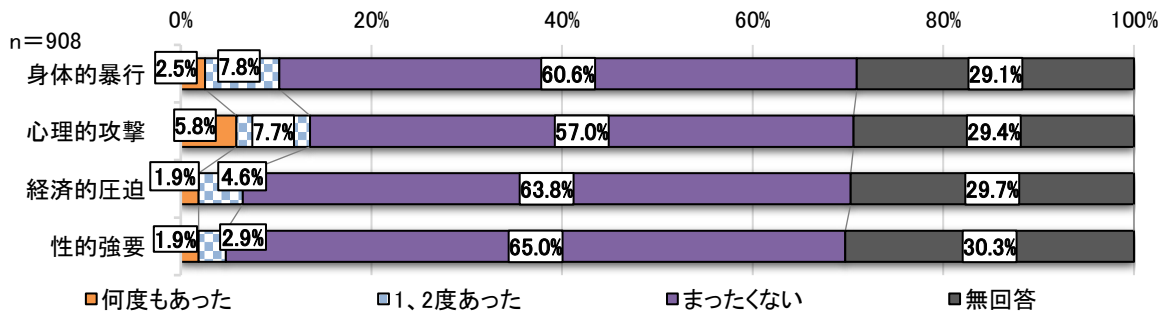
あなたはこれまでに、あなたの夫や妻(事実婚や単身赴任など別居中を含む)、生活の本拠を共にする交際相手から、次のような行為をうけたり、されたことがありますか。次のアからエのそれぞれについて、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

	あ 何 度 も あ っ た	あ っ た 1、 2 度	な い ま っ た く	無 回 答
ア 身体的暴行 (例:人ごつたり、けつたり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	2.5%	7.8%	60.6%	29.1%
イ 心理的攻撃 (例:人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話メールなどを細かく監視したり、長時間無視するなどの精神的嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が及ぼられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	5.8%	7.7%	57.0%	29.4%
ウ 経済的圧迫 (例:給料や貯金を勝手に使われる、生活費を渡さない、デート代や生活費を無理やり払わされるなど)	1.9%	4.6%	63.8%	29.7%
エ 性的強要 (例:嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ画像を見せられる、避妊に協力しないなど)	1.9%	2.9%	65.0%	30.3%

(「無回答」には、現在、夫や妻(事実婚や単身赴任など別居中を含む)、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む)

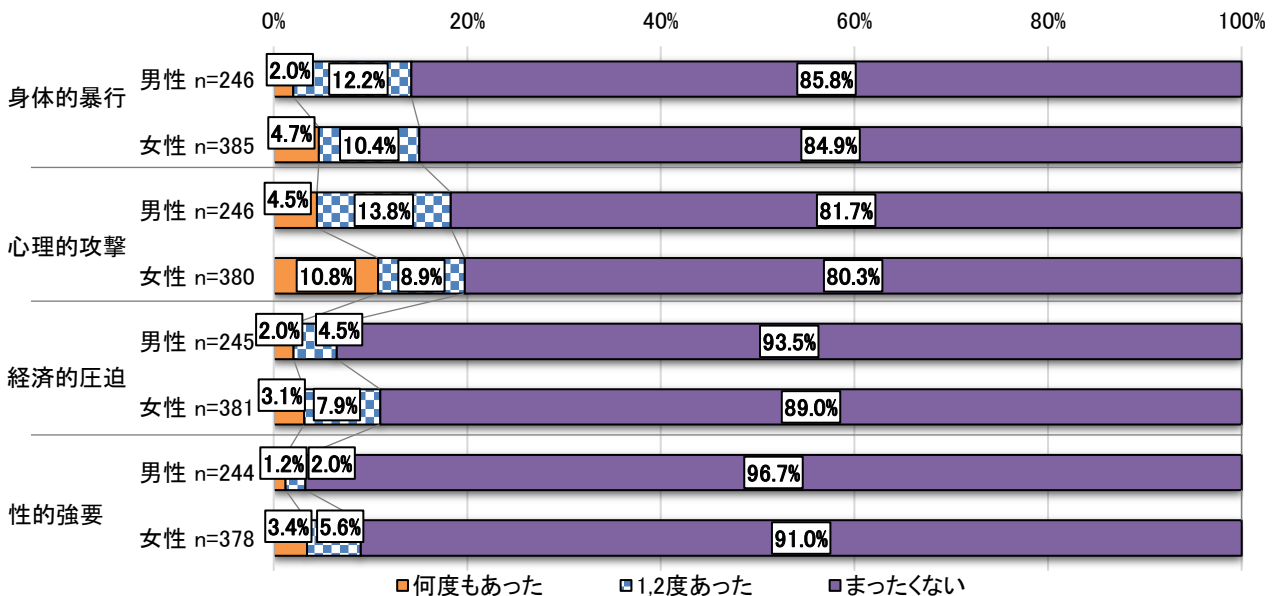
### 【全体】問5 夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力について、「経験がある」と回答した者(「何度もあった」と「1、2度あった」の合計(以下同じ))は、183人(20.2%)となっている。項目別では、「身体的暴行」(10.3%)、「心理的攻撃」(13.5%)、「経済的圧迫」(6.5%)、「性的強要」(4.8%)となっている。



### 【性別】問5 夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

性別にみると、「経験がある」と回答した者の割合は、「身体的暴行」(男性14.2%、女性15.1%)、「心理的攻撃」(男性18.3%、女性19.7%)、「経済的圧迫」(男性6.5%、女性11.0%)、「性的強要」(男性3.2%、女性9.0%)となっている。



### 【年齢別】問5 夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

年齢別にみると、「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「経済的圧迫」において、「経験がある」と回答した「10歳代」は、回答者数が少ない中ではあるが、割合が高くなっている。

